

流域治水を語る

— 上流と下流をつなぐ力 —



小城市多面的機能支払
交付金広域協定 会長

とどろき まさと
轟木正人さん

田んぼダムの取り組みに参加いただく地域の皆さんの取りまとめを行っています。
下流域へ水が一気に流れ込まないよう、上流地区としてもできることに取り組んでいきたいと考えています。また、主に下流地区で実施されている事前落水についても、上流地区で対応できる部分があると思っています。
今後も田んぼダムの取り組みを通じて、下流地区の負担軽減につなげていきたいです。



江口環境保全活動組織
構成員

ふじき あやこ
藤木理子さん

田んぼダムの取り組みをさらに広げていく必要があると感じています。堰板は排水口ごとに長さが異なるため調整が大変ですが、大雨が予報される際には、事前に田んぼの水をクリークへ流し、降雨に備えています。
今後も地域で協力しながら積極的に取り組んでいきたいと思っています。



▲堰板

田んぼダム・事前落水とは？

「田んぼダム」は排水口の調整で田んぼに雨水を貯め、河川への流出を抑える手法です。

「クリークの事前落水」は、豪雨予報時に水門やポンプで水位を下げ、遊水機能（貯留容量）を確保する手法です。

どちらも流域治水の一環として、田んぼやクリークの貯留能力を最大限に引き出し、下流域の浸水リスクを低減する効果的な防災・減災の取り組みです。



下流



砥川地区水害対策会議 会長
兼 満神排水機場管理組合 代表

じんのうち きよひろ

陣内清裕さん

令和元年、令和3年の豪雨災害の際は十分な対応ができず、事前落水をもっと実施していればよかったと感じています。現在は、大雨の予報が出た段階で関係者間の連絡体制を整え、事前落水に取り組んでいます。

今後も事前落水や排水機場の操作を通じて、地域の安心・安全の確保に尽力していきたいと思えます。



砥川地区水害対策会議
事務局長

まつお ゆうすけ

松尾祐亮さん

令和元年の豪雨災害を受け、令和3年に牛津町砥川地区を対象に対策委員会を立ち上げました。

地域では、大雨時に多くの方が地域のために尽力されていますので、その取り組みをもっと多くの方に知っていただきたいと思っています。また、田んぼダムの取り組みをきっかけに、上流地区でも同様の取り組みが広がっていただくと期待しています。

上流・下流地区の住民4人による「流域治水」をテーマにした座談会。地域を水害から守る者同士が、その重要性や現場の難しさを本音で語り合いました。それぞれの立場から寄せられた、熱い想いをお届けします。



流域治水とは？

河川管理者だけでなく、行政、企業、地域住民など、流域に関わるあらゆる関係者が協働して行う防災・減災の考え方です。

河川の堤防整備やダム建設といった従来の対策に加え、遊水地の活用や田んぼダムの推進、住宅の浸水対策、避難計画の策定など、流域全体で「氾濫を防ぐ」と「被害を最小限に抑える」ことを目指す総合的な治水対策です。

